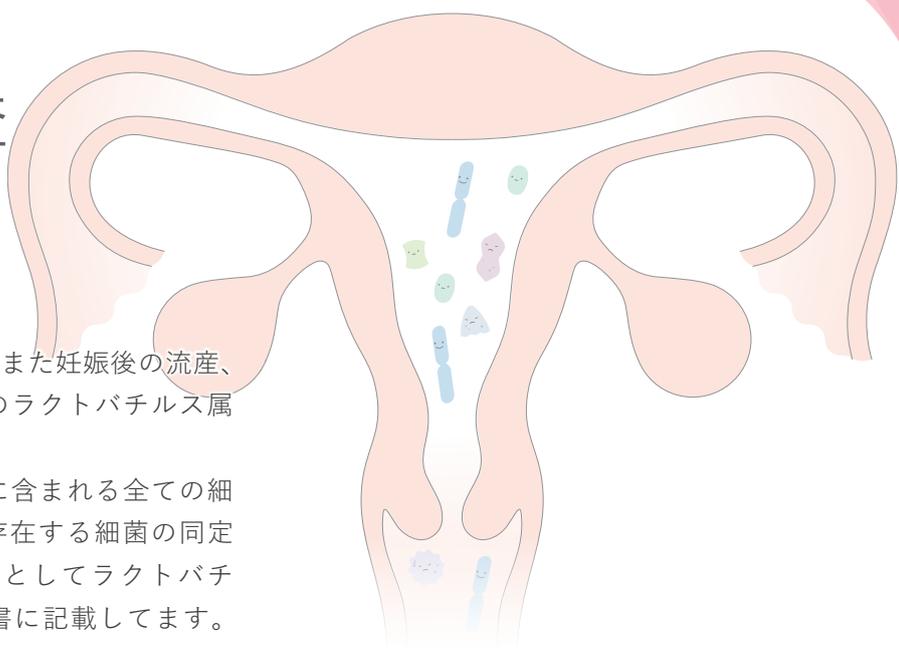


子宮内フローラ検査

Endometrial Microbiome Testing



子宮内フローラ検査は、着床、妊娠の成功率、また妊娠後の流産、早産と深く関わっている子宮内または腔内のラクトバチルス属菌の占有率を調べる検査です。

検査は次世代シーケンサーを用いて検体内に含まれる全ての細菌の 16S rRNA 遺伝子を解析し、検体内に存在する細菌の同定と割合を推定します。本検査方法では参考としてラクトバチルス属菌以外で検出された細菌も結果報告書に記載しています。

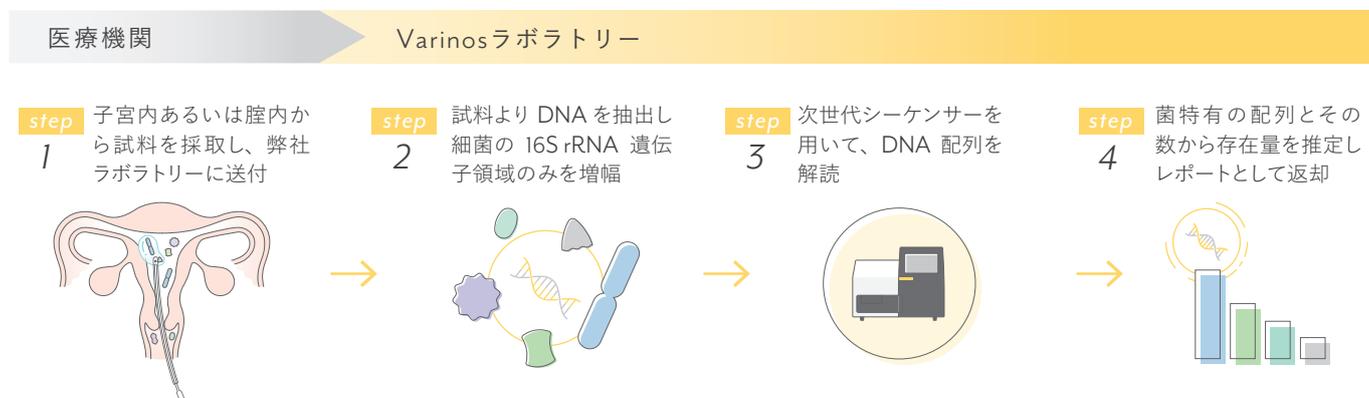
子宮内ラクトバチルスの妊娠・出産への影響報告データ

スペインの IVI Valencia クリニックにて、体外受精を実施している 35 人の不妊治療患者を対象に子宮内フローラを調べ、ラクトバチルス率が 90% 以上と未満の 2 群で、妊娠や出産に影響を与えるかどうかを調べた結果。



Moreno et al, AJOG, 2016 より改変

子宮内フローラ検査の流れ



検査対象

これから妊娠を望む
すべての方



不妊治療を受けていても
妊娠しない方



良好胚を戻しても
妊娠に至らない方



流産・早産経験がある、
または繰り返している方



検査を受けるメリット

1 子宮内に存在する細菌の割合が分かる。

2 ラクトバチルス占有率が分かる。

3 受検者へ検討材料を提供できる。

4

1回の検査でラクトバチルス以外の細菌、例えば細菌性陰症に関する病原性細菌、常在菌などの存在と割合が分かる。

5

判定不能率は2%未満。^{※1}

※1 2020年～2022年弊社検査結果報告より

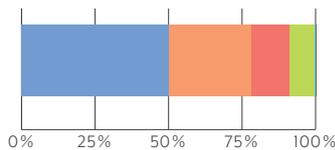
菌叢プロファイリングを分かりやすくレポート

検査で分かること

ラクトバチルス属菌の占有率

細菌の属名とその割合を
検査結果報告書に掲載。

参考：菌叢グラフ



ラクトバチルス属菌以外の細菌の存在と割合

例えば細菌性陰症となる病原性細菌、また常在菌、日和見菌などの細菌の存在と割合。

菌名	占有率 (%)	一般的な抗菌薬候補* (必ずしも抗菌薬の使用をおすすめするものではありません)
1 ● Lactobacillus	50.1%	
2 ●* Gardnerella	27.7%	メトロニダゾール (MNZ), クリンダマイシン (CLDM)
3 ● Staphylococcus	13.2%	
4 ●* Prevotella	8.6%	メトロニダゾール (MNZ), β-ラクタマーゼ阻害薬配合ペニシリン系薬, カルバペネム系薬
5 ●* Mobiluncus	0.3%	メトロニダゾール (MNZ), クリンダマイシン (CLDM)
6 ● Others	0.1%	

お問い合わせ：Varinos 株式会社

〒135-0064 東京都江東区青海1丁目1-20 ダイバーシティ東京 オフィスタワー 21 階

TEL: 03-5422-6501 (平日 9:00～18:00)

E-MAIL: info@varinos.com URL: https://www.varinos.com

EMT_DM_v20230401